

中国木材についてのSDGs

中国木材株式会社 代表取締役社長 堀川保彦

1 中国木材の歩みと国産材へのシフト

中国木材は、1950年チップ事業にて創業後、67年に製材事業を開始。北洋材からスタートし、ニュージーランド材等を経て、米松製材に行きつきました。95年阪神淡路大震災を契機に、乾燥材(ドライビーム)が大きく伸長し、業容が一気に拡大、また同時期に大工不足等を背景に普及し始めていたプレカット事業や集成材生産にも進出しました。当社は目まぐるしく変動する市況環境下でも、適切な価格での製品提供を行う事を目指し、次の3点からコスト削減に注力してきました。1つ目は「物流コスト」。自家用バース、物流センター等大型物流基地を自前で設置してきました。2つ目は「大規模製材」。大型工場での製材展開により規模の利益を追求しました。3つ目は「乾燥事業における廃材利用」。燃料としてコストの高い重油ではなく、オガチップ等廃材を活用してきました。

当社の使命は住宅用構造材のトップメーカーとして製品の安定供給責任を果たす事です。米松原木の長期的な供給見通しや国産材活用の機運拡大について検討の結果、国産材へのシフト加速を打ち出しました。国産材工場としては04年佐賀県伊万里市を皮切りに5工場を展開中ですが、現在は秋田県能代市に新工場を建設中です。第1表の通り、国産材製材は近年伸びているものの長年外材に劣後して

きました。当社は、国産材製品での供給・価格・品質面における安定性確保の必要性を痛感しました。14年稼働の日向工場では、製材・加工・バイオマスを一つの敷地内で行い、山から出る原木を全て受け入れる事でコストを下げ、また広大な敷地内に原木・製品を在庫としてストックするモデルを創り上げました。業績も安定し「日向モデル」というコンセプトに手応えを感じ、能代工場でも同様な展開を計画しています。

2 SDGsを目指して

上記の国産材事業拡大に合わせて、昨今の地球温暖化を受けての環境問題への関心の高まりを踏まえて、事業方針の柱の一つにSDGsを加える事にしました。「伐採→製材・加工→バイオマス→植林・育林」の事業フローに「炭素の吸収・固定・利用」の観点を入れていきます。特に、山林事業は二酸化炭素の吸収源として注目度が高まっており、相当規模に達している社有林の価値も一気に高まる気配があります。今後更に自社林取得を拡大していくと共に苗事業、J-クレジット事業等、山への関連投資を増やします。

又、当社は木材加工業を中心に前後のプロセスである林業、販売業にも深く関わる等、6次産業化を展開しています。こうした木材サプライチェーンマネジメントを最適化すること

が持続可能な社会貢献(SDGs)に繋がるとの見地から、自社の利益追求に止まらず、仕入れ先、販売先、物流業者様等のステークホルダーともwin-winの関係構築が図れるよう種々工夫研鑽したいと考えております。

(ほりかわ やすひこ)

第1表 国産材 製材量推移(工場別)



人と環境のことを一歩進んで考えます
中国木材株式会社

(単位 m)

	佐賀	広島	宮崎	茨城	岐阜	合計
2017年度	193,583	83,004	531,219	108,147	57,845	973,799
2018	199,390	66,964	510,760	104,145	65,837	947,096
2019	196,313	74,950	655,009	107,506	75,794	1,109,572
2020	169,335	76,998	625,851	98,188	60,043	1,030,415
2021	195,382	79,752	701,191	116,643	75,226	1,168,194

2022年度目標 125万m(2021年度比 107%)